

第105回日商簿記2級 第1問 仕訳問題類題 問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	受取手形	満期保有目的債券
売買目的有価証券	未収入金	未払費用	機械
支払手形	未払金	機械減価償却累計額	未処分利益
資本準備金	売掛金	買掛金	仕入
別途積立金	売上	固定資産売却損	有価証券売却益
固定資産売却益	役員報酬	有価証券評価損	減価償却費
有価証券売却損			

- 品川商事株式会社は、田村商店へ商品 ¥ 2,000,000 を売り渡し、代金のうち ¥ 800,000 は、遠藤商会振出し・田村商店受取りの約束手形を裏書譲渡され、残額は田村商店振出しの小切手を受け取った。
- 畠山株式会社は、3回に分けて、売買目的で取得していた上場株式のうち 20,000 株を、@ ¥ 300 で売却し、代金は4日後に受け取ることにした。第1回目(10,000株、取得価額 @ ¥ 242)および第2回目(8,000株、取得価額 @ ¥ 260)は、前期中に取得したものであり、前期末に @ ¥ 290 で評価替えされ、当期首に取得価額に振り戻しておく方法(洗替法)により処理されている。第3回目(12,000株、取得価額 @ ¥ 275)は、今期中に取得したものである。株式の払出単価の計算は移動平均法によっている。
- (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)
- 徳川商店は、掛代金の支払いのために作成した小切手 ¥ 100,000 と、備品購入代金の支払いのために作成した小切手 ¥ 50,000 について、すでに当座預金の減額として処理していたが、決算日現在、未渡しであることが判明した。
- 真田商店(年1回、12月末決算)は、平成20年6月30日、機械を ¥ 1,000,000 で売却し、代金のうち2分の1を小切手で受け取り、残額は翌月の20日に受け取ることにした。この機械は平成16年5月1日に購入(購入代価: ¥ 2,300,000、据付費用: ¥ 100,000)した資産であり、残存価額は取得原価の10%、耐用年数は8年、償却方法は定額法、記帳方法は直接法によっている。なお、決算日の翌月から売却した月までの減価償却費は、月割計算するものとする。

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	受取手形	800,000	売上	2,000,000
	現金	1,200,000		
2	未収入金	6,000,000	売買目的有価証券	5,200,000
			有価証券売却益	800,000
3	(試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)			
4	当座預金	150,000	買掛金	100,000
			未払金	50,000
5	減価償却費	135,000	機械	1,410,000
	現金	500,000		
	未収入金	500,000		
	固定資産売却損	275,000		
別解	減価償却費	135,000	機械	135,000
	現金	500,000	機械	1,275,000
	未収入金	500,000		
	固定資産売却損	275,000		

・解説

1. 売上取引に関する問題です。

本問は【約束手形の裏書譲渡に関する取引】【小切手の受け取りに関する取引】の2つに分けて考えましょう。

■約束手形の裏書譲渡に関する取引

まず、問題文の「代金のうち ¥ 800,000 は、遠藤商会振出し、田村商店受取りの約束手形を裏書譲渡され」から、他店振出しの約束手形を裏書譲渡されたことが分かります。この手形を受け取ることにより、手形の支払期日に手形代金を受け取る権利が発生するので、受取手形勘定の増加として処理します。

★解答① 他店振出約束手形を裏書譲渡された時の仕訳

(借) 受取手形 800,000 / (貸) 売上 800,000

■小切手の受け取りに関する取引

次に、問題文の「残額は～」から得意先振出しの小切手を受け取ったことが分かるので、現金勘定の増加として処理します。

★解答② 得意先振出しの小切手を受け取った時の仕訳

(借) 現金 1,200,000 / (貸) 売上 1,200,000

なお、小切手の受け取りに関しては、以下の3パターンの処理がよく問われます。参考までにご確認ください。

- ・得意先振出小切手を受け取った→**現金**の増加（本問）
- ・当店振出小切手を受け取った→**当座預金**の増加
- ・現金で受け取ってただちに当座預金口座へ預け入れた→**当座預金**の増加

最後に①②の仕訳をまとめると解答になります。売上取引に関する問題は、第 111 回の問 4や第 134 回の問 5でも出題されているのであわせてご確認ください。なお、本問は第 134 回の問 5とほとんど同じ問題です。

2. 有価証券の売却に関する問題です。

本問の売買目的有価証券は洗替法により処理されているので、まずは前期末と当期首にどのような仕訳を切ったか考えてみましょう。

まず前期首ですが、問題文に「**第 1 回目（10,000 株、取得価額 @ ¥ 242）** および **第 2 回目（8,000 株、取得価額 @ ¥ 260）**」とあるので、平均取得単価は以下のような計算式で算定します。

$$(10,000 \text{ 株} \times @242 \text{ 円} + 8,000 \text{ 株} \times @260 \text{ 円}) \div 18,000 \text{ 株} = @250 \text{ 円}$$

よって、前期末時点の時価@290 円と比較して有価証券評価損益を計上します。

$$(@290 \text{ 円} - @250 \text{ 円}) \times 18,000 \text{ 株} = 720,000 \text{ 円}$$

☆参考・前期末に切られた仕訳

（借） 売買目的有価証券 720,000 / （貸） 有価証券評価損益 720,000

この仕訳を踏まえたうえで当期首の仕訳を考えますが、こちらは単に**前期末に切られた仕訳の逆仕訳**を切るだけです。

☆参考・前期末に切られた仕訳

（借） 有価証券評価損益 720,000 / （貸） 売買目的有価証券 720,000

つまり、前期末に時価で評価替えしたものの、当期首にはまた取得原価に戻している訳ですから、売却時の売却損益を計算する場合は、**帳簿価額（取得原価）と売却価額を比較**します。

■有価証券の帳簿価額 = $(10,000 \text{ 株} \times @242 \text{ 円} + 8,000 \text{ 株} \times @260 \text{ 円} + 12,000 \text{ 株} \times @275 \text{ 円}) \times 20,000 \text{ 株} / 30,000 \text{ 株} = 5,200,000 \text{ 円}$

■有価証券の売却価額 = $20,000 \text{ 株} \times @300 \text{ 円} = 6,000,000 \text{ 円}$

■差額 = 800,000 円（帳簿価額 < 売却価額…売却益）

有価証券の売却に関する問題は、第 107 回の問 1や第 111 回の問 1、第 113 回の問 2、第 116 回の問 2、第 118 回の問 4、第 119 回の問 3、第 121 回の問 2、第 122 回の問 3、第 125 回の問 2、第 133 回の問 2、第 137 回の問 5でも出題されているので、あわせてご確認ください。

3. (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)

4. 銀行勘定調整表に関する問題です。

銀行勘定調整表は、第1問だけでなく第3問・第5問での出題も考えられるので、中でも頻出論点である未渡小切手は必ず出来るようにしておいてください。

ではさっそく問題を解いていきましょう。問題文に「掛代金の支払いのために作成した小切手 ¥ 100,000 と、備品購入代金の支払いのために作成した小切手 ¥ 50,000 について、すでに当座預金の減額として処理していたが、決算日現在、未渡しであることが判明した」とありますが、これがいわゆる「未渡小切手」です。

小切手を振り出し、支払いが完了したものとして処理していたが、実は先方に小切手を渡しておらず、金庫の中に小切手が眠っていたので、当座預金の減少を取り消すとともに、買掛金の未払いに関しては買掛金勘定で、備品購入代金の未払いについては未払金勘定を使って処理します。

☆参考・既に切っている仕訳

(借) 買掛金 100,000 / (貸) 当座預金 150,000
(借) 備品 50,000

★解答

(借) 当座預金 150,000 / (貸) 買掛金 100,000
(貸) 未払金 50,000

銀行勘定調整表に関する問題は、第100回の間4や第101回の間1、第111回の間2、第113回の間4、第115回の間5、第116回の間5、第123回の間1、第125回の間3、第133回の間3でも出題されているので、あわせてご確認ください。

5. 固定資産の売却に関する問題です。

今回の問題は決算日・購入日・売却日がバラバラで少し分かりにくいので、参考までに、固定資産購入時の仕訳から順番にチェックしていきましょう。

まず、購入代価 2,300,000 円に付随費用 100,000 円を足して購入原価 2,400,000 円を算定し、固定資産購入の仕訳を切ります。次に決算期末に5月1日から12月31日までの8か月分の減価償却費 (=2,400,000 円×0.9÷8年×8か月÷12か月) を計上します。なお、平成16年度の貸借対照表に表示される機械の金額は **2,220,000 円** になります。

☆参考・平成16年5月1日(固定資産の購入)

(借) 機械 2,400,000 / (貸) 現金など 2,400,000

☆参考・平成16年12月31日(減価償却費の計上)

(借) 減価償却費 180,000 / (貸) 機械 180,000

次に、平成17年度末・18年度末・19年度末にそれぞれ1年分の減価償却費を計上します。なお、平成17年度の貸借対照表に表示される機械の金額は **1,950,000 円**、平成18年度の貸借対照表に表示される機械の金額は **1,680,000 円**、平成19年度の貸借対照表に表示される機械の金額は **1,410,000 円** になります。

☆参考・平成17年12月31日（減価償却費の計上）

（借）減価償却費 270,000 / （貸）機械 270,000

☆参考・平成18年12月31日（減価償却費の計上）

（借）減価償却費 270,000 / （貸）機械 270,000

☆参考・平成19年12月31日（減価償却費の計上）

（借）減価償却費 270,000 / （貸）機械 270,000

固定資産に関しては上記のような流れで仕訳が切られているので、理解が不十分な方はテキストに戻って復習してください。

では早速、本問の仕訳を考えていきましょう。本問は、問題文に「決算日の翌月から売却した月までの減価償却費は、月割計算するものとする」とあるので、当期の減価償却費を計上した上で、売却の仕訳を考えていきます。

まず減価償却費ですが、これは6か月分の減価償却費を計上するだけなので、特に問題はないと思います。年間の減価償却費270,000円を2で割って、135,000円を算定します。

★解答①…減価償却費の計上

（借）減価償却費 135,000 / （貸）機械 135,000

なお、上記の仕訳を切ることにより、固定資産の帳簿残高は1,410,000円－135,000円＝1,275,000円となるので、この金額を元に売却の仕訳を考えていきますが、こちらも簡単なので特に問題はないと思います。固定資産の売却損益は、**帳簿価額と売却価額の差額**で求めることができます。

■固定資産の帳簿価額＝1,410,000円－135,000円＝1,275,000円

■固定資産の売却価額＝1,000,000円

■差額＝275,000円（帳簿価額＞売却価額・・・売却損）

★解答②…固定資産売却の仕訳

（借）現金 500,000 / （貸）機械 1,275,000

（借）未収入金 500,000

（借）固定資産売却損 275,000

最後に①②の仕訳をまとめて解答用紙に記入すれば完了です。なお、①と②の貸方の機械勘定はひとつにまとめても、まとめずにそのまま残してもどちらでも正解です。

固定資産の売却に関する問題は、第113回の問5や第117回の問4、第132回の問4、第144回の問2でも出題されているので、あわせてご確認ください。